

メッセージ

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

コープふくしま 地域理事
齋藤恵理子さん

コープふくしま・地域理事の齋藤恵理子さんに活動の内容や、日々感じていらっしゃることで、全国の生協に伝えたいことなどをお聞きしました。

●食事調査の実施を積極的にすすめ

——齋藤さんの普段のご活動について教えてください。

コープふくしまの地域理事を務める齋藤恵理子さん。

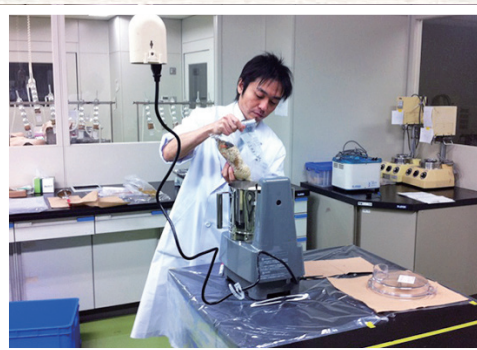
地域理事として、「コープ委員会」を地域に立ち上げコープ商品を多くの方に知っていただくための活動や、「親子ひろば」の支援、コープカフェの開催、サロン活動などを行なっています。

最近の食事に含まれる放射性物質測定検査について多くの方に伝えていく活動も多くなっています。放射性物質に関して不安を抱えて

いる方はまだまだ多いので、コープふくしまの委員会活動で紹介したり、地域で子育てをしている方におすすめしています。

——コープふくしまが実施している、食事に含まれる放射性物質測定の取り組みについて教えてください。

食べ物に含まれる放射性物質の測定方法は、大きく分けて2種類あります。実際に食べた食事を検査する陰膳方式かげぜんと、個別に単体の農作物を調査する方式です。この2つは対立するものではなく、目的によって使い分けます。陰膳方式は、「日常的にどのくらいの量を摂取しているのか」が分かります。しかし、仮に放射性物質の値が高かったとしても、どの食品に含まれていたのか分からない、ということがデメリットとして挙げられます。一方、単体の農作物を検査する方式では、食材1kgごとに検査



測定は、日本生協連検査センターで行なわれる。写真は、食事をミキサーに入れているところ。このあと、ミキサーで粉碎され、測定器に入れられる。

を行ないますので、例えばニンジン1kgあたりにどのくらいの放射性物質が含まれているのかが分かります。しかし、ニンジン1kgを一度に食べることはないわけですから、普段の食生活の実態が知りたい場合は陰膳方式、野菜をたくさん栽培されている方が近所に配る場合や井戸水の検査などには単体での検査が有効ですね。

陰膳方式も、コープふくしまの活動が新聞などで報道されているので、認知度は上がっていると思います。私も子育て中なので、ママ友など組合員以外の方にもすすめています。学校などでも声を掛ける



コープふくしまは、食事調査参加者に向けた説明会も丁寧に行なっている。

と、やはり皆さんが興味を持って聞いてくださいます。「食事調査をやっているのは知っていたけれど、どうやって申し込めばいいのか分からなかった」とおっしゃる方も多いですね。(放射性物質を)気にしていないように見えた方でも、お声掛けすると「ぜひやってみよう」とおっしゃることもあります。一方で、気にしているけど、「検査の結果を知るのが怖いから」と参加されない方もいらつしやいます。考え方もさまざまですから、踏み込むことはしません。

●さまざまなかえ方を尊重していききたい

——地元の皆さんとは原発事故や津波被害のお話はされていますか？

震災直後はしていました、3年目に入ると、あまり出てこなくなりましたね。気にしている方は県外に出てしまっているという背景もあります。

福島県で暮らされている方は、いろんな事情で県内にとどまっている方、最初から気にしていない方に二分されますね。お互いに交われない部分もあると思います。

怖がることは悪いことではありませんので、「大丈夫だ」と押し付けるわけにもいきません。難しいところですね。私も最初は気にして避難もしていました。でも、コープの学習会で外部被ばくなどについても学んだこともあり、私自身は今は「大丈夫」感じています。学習会では、外に干した洗濯

物に放射性物質がついて被ばくするわけではないことなどを知り、勉強になりました。

また、福島の県産品は何重にも検査しているので安全です。知らないから怖いのだと思います。とはいえ、一度植え付けられた恐怖心を払拭できずに、今も見えない不安におびえている方がたくさんいらつしやいます。それぞれの立場や考え方の違いを認め、互いを尊重する気持ちが今の福島では特に大切なことに思えます。

——コープふくしまは、仮設住宅でのサロン活動にも力をいれていらつしやいます。

仮設住宅に住んでいらつしやる方も、考え方はそれぞれ違って、置かれている状況もさまざまです。若い方の中には避難先を新しい生活の拠点にしている方もいらつしやいますし、県外のお子さん

と住むからと福島を出て行く方



サロン活動でフラダンスを踊り、参加者と楽しい時間を共有しました。(写真、左端が齋藤地域理事)

もいらつしやいます。そうした中で、ご高齢の方は故郷に帰りたいたいと思いつつ、叶わないと諦めている方が多いです。

七夕の時に、ある方から「短冊には、本当は『ふるさとに帰りたい』と書きたいけど、叶わないから書かない」と言われました。普通に交流していると、そこが仮設住宅であることを忘れるくらい楽しいのですが、ふとしたときに本音が出るんですね。ぜんぜん傷は癒えてないんだなと分かることがあります。

サロン活動では、「何かしてあげなくちゃ!」と、力んでしまう



仮設住宅に飾られた七夕の短冊。「コープの皆様ありがとうございます」と書かれたものも。

とダメだと思えます。あまり踏み込みすぎてしまうより、自然体がいいと思います。何度か顔を合わせているうちに、相手のほうからぼろっと心のうちを話してください。かたが理想ですが、言葉にできない胸の内は計り知れません。仮設住宅の集会所でのふれあいサロンでは、少しの非日常を提供させていただくことで、入居者の方の心に晴れ間が広がるお手伝いできればと思っております。

サロンには、旧さいたまコープさん(現・コープみらい)をはじめ、全国からいろいろな生協の皆さんが来てくださいます。生協ひろしまさんは

「お好み焼き隊」として来てくださいました。広島風お好み焼きを食べる機会はなかなかないので、好評でした。私たちも焼き方のレクチャーを受けました。また、コープおおいの理事さんが来てくださった時は、「脳トレ」など遊びの企画を持ってきてくださって楽しめました。皆さんに感謝しています。



生協ひろしまのお好み焼き隊には、行列ができました。

●大好きな福島に、来てくなんしょ!

—— 支援へのリクエストがあればお願いします。

「どのような支援が必要ですか」とよく聞かれます。まずは、福島県に来ていただきたいですね。防護服を着てマスクをつけて生活しているイメージが強いようですが、もちろんそんなことはありません。普通に生活しています。

ただ、放射線量を測定するモニタリング・ポストが街なかに置いてあるとか、浜通り地方(いわき市や相馬市など沿岸部)などはまだ帰還困難区域もあって、放射能の問題は片付いていないという面も確かにあります。そういった部分を見ていただくのも大切ですが、「福島は復興に向け、前に進んで動いている」ということも知っていただきたいです。

支援としては、募金よりも、たとえばお買い物金額の1%が被災地に行くようなシステムのほうが無理がなくていいかなと思います。

—— 最後に、全国の皆さんにメッセージをお願いします。

私は福島が大好きなので、福島で胸を張って生きていきたいのです。皆さんも福島にぜひおいでください。

また、全国の生協の皆さんからご支援いただき、感謝しています。他県の皆さんといろいろなお話ができるのもありがたいです。お話する中で、福島県内では「ベクレル」や「シーベルト」などの放射能に関する用語は当たり前になっているけれど、他はそうではないんだなどあらためて思ったりしています。

いろんな活動に接して、生協はできることはたくさんある、という実感があります。「花も実もある福の島」。全国の皆さまに足を運んでいただき、福島の「今」を感じていただきたいです。福島を感じていただくことが福島の復興につながります。

皆さん、ぜひ福島に来てくなんしょ!

(取材日 2013年6月23日)